



特集

「毎日新聞」が連載した「医療クライシス (危機)」に関する医療界からの反応について、インターネットで調べた限りを掲載します。今日問題になっている医療界の危機がよく示されています。

なお、関連して、小浜病院はこの 8 月からは内科、循環器科は紹介外来 (各、医院からの紹介を持った患者さん) のみの診察になります。また、舞鶴の共済病院はこの 4 月から内科と消火器内科は紹介外来のみの診察になっています。いずれも担当医不足によるものです。

... ..

◇医学部定員大幅増をー東北大教授 (地域医療システム学)・伊藤恒敏氏

私たちは、全国を 358 地域に分けた 2 次医療圏ごとに、人口 10 万人あたりの医師数を調べてみた。東京都や政令市が入る医療圏は平均 255 人で、それ以外は 175 人。多いはずの大都市ですら、経済協力開発機構 (OECD) 諸国平均の 300 人を下回る。偏在というより、全国で足りないと言う方が正しい。

勤務医は平均で週約 60 時間働いているが、我々の計算では、労働基準法通りの週 40 時間にするには約 10 万人足りない。OECD 平均に追いつくには約 14 万人不足だ。

一方、今すぐ定員を増やしても、一人前の医師になるまで 10 年以上かかる。緊急に取り組むべき対策として「マグネット・ホスピタル」という構想を提言している。

東北大からの医師の赴任先を調べると、ベッド数 200~300 床の病院は少なく、400~500 床以上が多い。医師は、自分の技量を高められる病院に行きたい。大きな病院は各診療科がそろい、若手医師への指導体制も良いからだろう。そこで、2 次医療圏ごとに 500 床程度の中核病院を作り、そこから周辺の中小病院に医師を派遣するという構想だ。

◇地域で働く魅力語れー島根県医師確保対策室長・木村清志氏

国は昨年、青森など医師不足が深刻な 10 県で大学医学部の定員増 (最大 10 人) を条件付きで容認したが、島根は対象外だった。しかし、島根も深刻な医師不足に悩まされている。過疎地の公立診療所や小病院は医師確保に苦勞し、閉鎖に追い込まれる診療科もある。

島根が対象外となったのは、04 年の人口 10 万人あたりの医師数が全国で 9 番目に多い 253 人で、基準の「200 人未満」を上回ったからだ。全国 9 位の県が不足しているのだから、医師不足は全国的なのだろう。

忍び寄る崩壊の足音 分べん台で 1 時間待ち

◇転送先探し、東京でも困難に

全国で最も病院が多く、医師も集中する首都・東京のベッドタウン、東京都日野市。住宅街の 1 角に建つ日野市立病院 (300 床) の市原眞仁院長は、疲れた表情で話し始めた。

「どこに頼んでも医師が見つからない」

大学からの医師派遣を次々と打ち切られ、内科や小児科など 5 科で入院の受け入れ制限など診療を縮小している。4 月には脳神経外科が縮小に追い込まれる見通しだ。

